

訪問看護に集中する 環境づくりのため、 看護師が立ち上がりました

編集室

訪問看護事業所の仕事は、訪問によるケアが全てではありません。それが中核業務として存在する一方で、日々の記録書や報告書、計画書の記載、レセプト請求、スケジュールの調整、労務管理、公的調査や学術研究への協力……などといった周辺業務が数多くあります。その存在感は大きく、中核業務である利用者のケアに影響が出ないように心を砕く事業所も多いのではないのでしょうか。

「周辺業務を効率化」。それは多くの事業所に共通する課題です。そして、利用者と向き合う時間を大切にしたい訪問看護師に共通する願いです。

立ち上がった現場の訪問看護師

現場に横たわる課題の存在は明らかなものの、その解決は決して容易いものではありません。周辺業務の効率化は、法人・事業所単位の努力でなんとかなるものばかりではなく、法人・事業所を超えた知恵と発想、そして働き掛けが求められるからです。

そこで立ち上がったのが、一般社団法人Vehicle for Nurses（以下、VFN）です。設立メンバーは、それぞれ自ら訪問看護事業所を立ち上げ、看護師として、管理者として現場で働く有志の5人。岩本大希さん（WyL株式会社）、中澤ちひろさん（株式会社Community Care）、藤野泰平さん（株式会社デザインケア）、柳澤優子さん（一般社団法人Life&Com）、吉江悟さん（一般社団法人Neighborhood Care）で、周辺業務の効率化をサポートする活動を進めていくそう。

「看護」に集中できる環境を整えるために

VFNでは、どんなことをしていくのか。例えば、現場目線の使いやすい訪問看護の記録・業務システムの推奨や普及を挙げ、「2025年を目処に、VFN推奨システムを賛助会員に対して会員価格で提供」できるよう進めていくと述べています。

現状、全国各地の事業所が使用する訪問看護の記録・業務システムは、法人・事業所単位で選定



されています。各種メーカーの製品を時にカスタマイズしながら使用したりと、運用スタイルもさまざまです。そこでVFNが現場で使いやすい訪問看護の記録・業務システムの仕様策定・選定の役割を担い、最適なものを普及させることで周辺業務の効率化を図り、看護師が「看護」に集中できる環境を整えていく役割を果たすのだと言えます。

なお、多くの事業所で共通するシステムを使用できれば、「よりよい看護」が追求しやすくなります。

事業所には公的調査や学術研究への協力要請も多く寄せられます。必要な手続きとはいえ、個別の対応が事業所にとって大きな手間になっているのも事実です。しかしそのとき、全国各地の事業所が同じシステムを使用し、かつシステム側で自動に集計・出力できる仕様となっていたら、各事業所の負担を増やさぬまま、調査・研究実施者が必要なデータを効率よく回収する、といったことも可能になります。つまり、日々の訪問看護実践の記録が調査・研究に活かしやすい形となり、効率のよい施策への反映や新たな知見の創出が期待できるようになるのです。

この「よりよい看護を提供していくために、効率よくデータを収集し、施策や学術研究に活かしていくこと」もVFNの狙い。周辺業務の効率化を狙った試みは、実はさまざまな形で看護の質を高める可能性に満ちています。

*

VFNは現在、本格的な稼働に先駆けてクラウドファンディングに挑戦中（2022年6月30日まで）。VFNの周知とともに、「周辺業務の効率化を目指し、より看護に向き合う時間をつくること」を広く呼び掛け、活動していくための資金を募っています。

